

ガバナー月信

Governor's Monthly Letter

2024-25 年度 地区年度テーマ
『よりそう奉仕・ロータリー』Vo.13
2025国際ロータリー第2620地区
2024-25年度 ガバナー

小泉 久司 (甲府西 RC)

暑中お見舞い申し上げます。

さて、稲葉雅之ガバナー年度が始まりました。私はガバナーの役目を終え、ガバナー事務所は直前ガバナー事務所として、8月末まで残務処理に入っておりますので、直前ガバナーとして、年度を振り返る時を過ごすとともに、新たに今年度与えられたお役目にまい進いたしております。

ガバナー年度開始後にスタートした公式訪問では、74のロータリークラブと5つのローターアクトクラブを訪問させていただきました。79通りのクラブの個性と、クラブの運営、ロータリー活動・奉仕へのエネルギー等に直に触れ、学びの多い時間を過ごすことができました。さまざまな地域に根差したそれぞれのクラブが、地域社会で、あるいは世界で、ロータリーのマジックを展開するために尽力しておられました。年度末に熱海南ロータリークラブがR I脱会となりましたことは、熱海市という地域で長年にわたり真摯に活動を展開されておられた貴重なクラブでございましたので、大変残念なことではございました。公式訪問はやはり、ガバナーとしての学びの多い、心に残る大変貴重な経験でございました。

年度末に開催された、カルガリー国際大会におきましては、開会本会議、R I理事主催の親善朝食会に参加したほか、地区ナイトを開催いたしました。R I理事主催親善朝食会では、ステファニー・アーチック R I会長のほか、マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ氏の後任の2025-26年度R I会長、フランчесコ・アレツォ氏もご挨拶をされましたが、お話にユーモアがあり、とてもチャーミングで親しみやすい印象がございました。きっと「よいことのために手を取り合おう (Unite for Good)」のメッセージのもと、私たちが明るい方向へ導いてくださるだろうと確信いたしました。また、地区ナイトには30名の皆様にご出席いただき、交流を通じて有意義な時間を過ごすことができました。ご出席いただいた皆様に深く感謝を申し上げます。

私どもは今年度、ステファニー・アーチック R I会長が掲げられたテーマ「ロータリーのマジック (The Magic of Rotary)」の下、活動を展開してまいりました。2024-25年度の活動の報告につきましては、9月に発行予定の報告書にて改めてお知らせいたします。

ガバナー補佐の皆様、地区委員会の皆様、クラブ会長・幹事、会員各位、そして地区幹事グループの皆様のご尽力、ご支援とご協力により、無事に年度を終えることができましたことに、衷心より深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

2024-25 年度 山静学友会総会

6月14日（土）、静岡商工会議所におきまして、「山静学友会 総会」が開催されました。

当日は、山静学友会 会長の岩本光弘様、代表幹事の和田直樹様をはじめ、計21名の会員が出席いたしました。地区からは、小泉久ガバナー、安間みち子ロータリー財団委員長、稲葉雅之ガバナーエレクト、若林秀典ガバナーノミニ、柳場文彦 学友委員会委員長を含む7名の皆様にご出席いただきました。

総会は、岩本光弘 会長の開会のご挨拶から始まり、続いて地区より、小泉久ガバナーおよび安間みち子パストガバナー（現・ロータリー財団委員長）よりご挨拶を賜りました。学友会の会員は、GSE（ロータリー財団の研究グループ交換プログラム）、国際親善奨学生、グローバル補助金奨学生など、ロータリー財団のプログラムを通じて留学した、地区内在住の皆様によって構成されています。

今回の総会では、静岡県立大学国際関係学部 教授の澤崎宏一様（1986～87年 国際親善奨学生・アメリカ）をお迎えし、「米国の大学における日本語教育の広がり」と題してご講演いただきました。

また、近況報告として、グローバル補助金奨学生の青木美紀様、大塚理央様、一川小百合様の3名より、オンラインでの報告も行われました。

閉会にあたり、山静学友会 名誉会長・曾根真人様よりご挨拶をいただき、総会は滞りなく終了いたしました。

その後に行われた懇親会では、留学当時の思い出話に花が咲き、和やかな雰囲気の中、親睦を深めるひとときとなりました。



2024-25 年度 米山記念奨学委員会 引継ぎ式

6月15日（日）、公益財団法人 米山梅吉記念館において、「米山記念奨学委員会 引継ぎ式」が厳かに開催されました。

当日は朝から静岡県内全域で激しい風雨に見舞われ、高速道路では複数の事故が発生し、各地で深刻な渋滞が発生しておりました。そのような悪天候の中でも、多くの委員が時間を調整しつつご参集くださり、心より感謝申し上げます。

開会点鐘は午前10時10分に鳴らされましたが、やむを得ず遅れて到着された委員の方々も数名いらっしゃいました。

まず、三浦委員長による引継ぎ式が行われ、新たな体制へのバトンがしっかりと手渡されました。その後、「米山奨学生 指定校選定会議」および活発な意見交換が行われ、充実した内容のもと、2時間足らずで委員会は円滑に終了いたしました。

会議の後は、参加者同士の和やかな交流を兼ねた食事のひとときが設けられ、親睦を深める貴重な時間となりました。その後、小泉久司ガバナーと中込茂 地区幹事は次のご予定のため、ご帰路につかれました。

2024～2025 年度 米山記念奨学委員会の皆様へ

一年間にわたるご尽力に、心より感謝申し上げます。皆様の温かなお支えが、多くの奨学生に希望と成長の機会を届けてくださいました。今後のご活躍とご健康を、心よりお祈り申し上げます。



稲葉雅之ガバナーエレクト挨拶



若林秀典ガバナーノミニ



小泉久司ガバナー挨拶



カルガリー国際大会 報告

カルガリー国際大会は、6月21日から25日まで、カナダ・カルガリーにて盛大に開催されました。小泉久司ガバナーをはじめとする10名のメンバーは、6月20日午前10時に甲府をバスで出発し、午後2時に成田空港へ到着。その後、午後5時25分発のエア・カナダ便でバンクーバーへ向かいました。日本とバンクーバーとの時差は16時間。さらにバンクーバーで乗り継ぎ、最終目的地カルガリーへと向かいました。

機内には、世界中からカルガリー国際大会に参加するロータリアンたちの姿が多く見られ、到着後のカルガリー空港も、世界各国のロータリアンで溢れかえっておりました。その光景を目の当たりにし、「ロータリーは本当にすごい！」と、思わず心の中で叫んでしまいました。

大会登録日となった翌日は、なんと大荒れの天気。最高気温はわずか8度と、甲府の38度の猛暑日からは30度もの気温差があり、身を震わせるような寒さの一日となりました。

そして、6月22日（日）はいよいよ本会議の開幕日。雨も上がり天気は回復しつつありましたが、依然として冷え込む朝となりました。

この日は、午前7時よりハイアット・リージェンシー・カルガリーにて「親善朝食会」が開催され、約300人の日本のロータリアンが会場を埋め尽くしました。参加費は10,000円。この場では、水野RI理事、ステファニー・A・アーチックRI会長、そして2025-26年度RI会長に就任予定のフランチェスコ・アレツォ氏が登壇し、それぞれご挨拶をされました。

アレツォ氏はスラリとした体形の、まさに典型的なイタリア紳士。私も朝食会の終了後に握手を求めましたが、お忙しいご様子で「Sorry, sorry」と言い残し、足早に会場を後にされました。近くでお目にかかれただけでも、大変貴重な体験となりました。

朝食会の後は、チャーターバスで大会会場「スコシアバンク・サドルドーム」へと移動。ついに開会式の幕が上がりました。

この国際大会には、世界140ヶ国以上からロータリアンが集まり、まさに世界屈指の大規模な大会として華々しく開催されました。

開会式では、ロータリーとビル&メリンダ・ゲイツ財団が、ポリオ根絶のために数百万ドル規模の追加支援を行うことを発表。ステファニー・アーチックRI会長が、数千人の参加者と共に「ヤフー！」と高らかに開会を宣言しました。この掛け声は、カルガリー名物「カルガリー・スタンピード」にちなみのもので、参加者の多くがカウボーイハットをかぶってこの伝統を祝いました。

アーチック会長はスピーチで次のように語りました。

「ロデオの服を着ているからといって、私たちが真剣でないわけではありません。この派手な装いの奥には、“目的意識”があります。いま世界は分断されているように感じるかもしれませんが、でもロータリーは、違いをなくすのではなく、その違いを尊重し祝うことで、人々をつなげていきます。それこそが、ロータリーが平和を築く方法なのです。平和とは、争いがない状態だけでなく、理解し合える心が存在する世界を意味します。」

ロータリーとゲイツ財団は、今後3年間で最大4億5,000万米ドルをポリオ根絶に投じるという共同コミットメントも正式に発表しました。

その日の夕方には、小泉久司ガバナー主催による2620地区「地区ナイト」が開催されました。野口英一パストガバナー、中村皇績パストガバナー、若林秀典ガバナーノミニ、山梨第2グループの田村ひろ子ガバナー補佐、静岡第5グループの内山悦二ガバナー補佐をはじめとする約30名のロータリアンおよびご家族が集い、親交を深める心温まるひとときとなりました。

翌日は晴天に恵まれ、オフィシャルツアーが実施されました。カルガリーから車で約1時間半のバンフ、さらにそこから1時間半ほど進んだカナディアン・ロッキーのふもとにあるレイク・ルイズを訪れ、大自然の雄大な景色を心ゆくまで堪能いたしました。

こうして、カルガリーでの国際大会は、学びと感動に満ちたかけがえのない体験となりました。

カルガリー国際大会

2025.6.21-25



バンクーバー国際空港



国際大会会場にて



国際大会会場にて



アーチック RI 会長との記念撮影



レイクルイーズにて



地区ナイト野口 PDG 乾杯



RI 理事主催 親善朝食会



地区ナイト

静岡ロータリークラブ 創立90周年記念例会

6月30日(月)、小泉久司ガバナー年度における最後のクラブ公式訪問が、静岡ロータリークラブ創立90周年記念例会として盛大に執り行われました。

会場は、静岡市葵区の「札の辻クロスホール」。午後3時より、多くの来賓や地区関係者を迎えて記念すべき例会が幕を開けました。

ご来賓としては、第2580地区 東京ロータリークラブより亀谷太郎会長、江幡哲也幹事、第2590地区 横浜ロータリークラブより工藤誠一会長、第3350地区より Patsri Suwimol ガバナー、Kolkit Suwimol パスト会長(サートンロータリークラブ)、第3521地区 台北中原ロータリークラブより Ping Yu Ko 会長がご臨席くださり、国際色豊かな顔ぶれが揃いました。

第2620地区からは、小泉久司ガバナーをはじめ、稲葉雅之ガバナーエレクト、若林秀典ガバナーノミニ、杉山元・静岡第3グループガバナー補佐、さらには静岡第3グループのクラブ会長・幹事など、多数のロータリアンが一堂に会し、クラブの節目を祝いました。

例会は、川辺哲会長の点鐘とご挨拶から始まりました。

静岡ロータリークラブは、**昭和10年(1935年)**に横浜ロータリークラブの子クラブとして、日本で28番目に設立されました。設立時のチャーターナイトには、ロータリー運動の日本の礎を築いた米山梅吉氏も出席されたとのこと。

しかし、その後日本が戦時体制へと進む中で、昭和15年に一時解散。戦後、昭和25年に東京ロータリークラブの支援を受けて再結成され、以降、90年にわたり、数々の先輩方の情熱と奉仕の心によって、豊かな歴史を紡いでまいりました—そのような感慨深いご挨拶がありました。

続いて、小泉久司ガバナー、東京ロータリークラブ 亀谷太郎会長より、ご祝辞と励ましのお言葉が述べられました。

この記念例会では、3名の新入会員が紹介され、小泉ガバナーからロータリーバッジおよび地区バッジがそれぞれ贈呈され、会場は温かな拍手に包まれました。

プログラムでは、記念演奏会が開催され、「東京ビッグバンド」所属のジャズピアニスト ジョナサン・カツツ氏を中心に、ドラム・ベース奏者に加え、富士山静岡交響楽団よりバイオリン・ビオラ・チェロ奏者が参加。さらに、ジャズシンガーのウィリアムス浩子氏を迎え、90年の歴史にちなんだ歌謡曲やジャズの名曲が披露されました。

ラストを飾ったユーミンの名曲「中央フリーウェイ」では、会場全体が一体となって盛り上がり、記念例会にふさわしい華やかな締めくくりとなりました。

その後、会場を「グランディエール ブケトーカイ」に移し、志田洪顯パストガバナーの乾杯のご発声により、祝賀会が開宴。格式ある空間と美味しい料理・お酒に囲まれ、出席者の間では笑顔と歓談が絶えないひとときとなりました。

中締めでは、次年度会長・児玉俊明様よりご挨拶があり、続く三本締めにて、静岡ロータリークラブ90周年記念祝賀会は、感動と温もりに包まれながら閉会いたしました。



3350 地区ガバナー 2620 地区ガバナー児玉会長エレクト



川辺会長ご挨拶



東京 RC 亀谷会長ご挨拶

小泉久司ガバナー事務所スタッフからご挨拶

小泉久司ガバナーのもとで歩んだ 2024-2025 年度も、無事にその幕を閉じました。

この一年、幾度となく私たちを導き、励まし、そして「よりそって」くださったガバナーのご姿勢に対し、運営事務所スタッフ一同、心より敬意と感謝を申し上げます。

毎月の定例会、公式訪問、地区行事、地区大会、そして国際大会に至るまで、どの場面においても常に「人の心によりそうリーダー」として、誰よりも深くロータリーの精神を体現されていたお姿が、今なお鮮やかに心に残っております。

ときに厳しく、ときに優しく、そして何より楽しさとユーモアを忘れずに前を向くそのご姿勢に、スタッフ一同もまた多くの学びと誇りを得ることができました。

さらに、地区の皆様からもあたたかいお言葉と親しみあふれるお気持ちを、多くの場面でいただきました。国際ロータリー第 2620 地区の皆様、一年間、本当にありがとうございました。

そして、稲葉雅之ガバナー年度においても、より多くの方々に寄り添い、笑顔と幸福が広がるよう、ロータリー活動のさらなる充実を願って、バトンをお渡しいたします。今後ともにロータリーを楽しみながら、地区の皆さんを支えてまいります。

ロータリーの理想を現実のものとし、地区全体に希望と一体感をもたらしてくださったガバナーに、あらためて深く感謝申し上げます。

国際ロータリー第 2620 地区
小泉久司ガバナー年度 事務所スタッフ一同